

Sun*

Quick*Proto

事業アイデアを試作し、
受容性をクイックに検証する

事業アイデアを試作し、受容性をクイックに検証

デジタルプロダクトの開発を数多く手掛けてきたデザイナー・エンジニアが、事業フェーズに応じた課題・GOALに合わせて事業アイデアを短期間で試作し、受容性の検証までご提供するサービスです。

このような課題を持つ、企業様に特におすすめです

1. 事業構想はあるが、本当にユーザーに受け入れてもらえるサービスであるか、根拠が弱い

→ ソリューションアイデアの検証を行い、コンセプトの受容性を測れます。

2. ソリューションアイデアが適切にプロダクト設計されているかわからない

→ プロダクト内の体験、機能、ユーザビリティの検証を行えます。

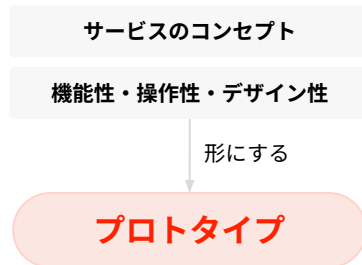
3. 新規事業への投資判断、開発予算の承諾のための、説明材料が足りない

→ マーケットインされるサービスイメージを具体的に伝えることができます。



プロトタイプとは？

プロトタイプとは、本格的に事業投資を行う前に、事業アイデアの受容性を検証するために作成する試作品のことを言います。
提供するサービスのコンセプト、プロダクトの機能性・操作性・デザイン性を形にします。



プロトタイピングとは？

プロトタイピングとは、プロトタイプをもとに、提供しようとしているサービスが社会・企業・ユーザーにとって本当に価値あるものになるのかを検証するプロセスのことです。
作成したサービスのコンセプト、プロダクトの機能性・操作性・デザイン性を検証していきます。



検証項目に対して最小工数のアウトプットで適切な検証を支援

Process →

コンセプト設計フェーズ

機会定義

サービスを提供する対象や、取り組む課題の妥当性を検証

ソリューションアイデア

定義した機会に対しソリューションアイデアが正しい解決策になっているのかを検証

プロダクト設計フェーズ

UI設計

コンセプトが正しくUIとして設計されているかを検証

インタラクション

ユーザーの行動に対して正しい挙動やフィードバックを行っているかを検証

提供するプロトタイプ

コンセプトプロトタイプ・デザインプロトタイプ・テクニカルプロトタイプ

プロトタイプには3つの種類があります

コンセプトプロトタイプ



コンセプトの要点やストーリーを共有するためにビジュアル化したもの。
アイデアの受容性を検証したり、関係者間での共通認識を作ることができます。

デザインプロトタイプ



プロダクトやサービスのUI/UXを具体化したもの。
デザインの妥当性やユーザビリティを確認できます。

オプション ファンクショナルプロトタイプ

デザインプロトタイプだけでは実現しきれない、技術要素が関連するインタラクションも含めたユーザー体験を形にするために「ファンクショナルプロトタイプ」もご提供しています。

テクニカルプロトタイプ



技術要素がプロダクトのコア体験となる事業アイデアにおいて、主要機能をコーディングすることでアイデアを形にしたもの。技術的な制約や課題を洗い出し、実際の動作を確認しながらアイデアの検証を行うことができます。

ユースケースとプロトタイプの対応表

コンセプトプロトタイプ

デザインプロトタイプ

オプション ファンクショナルプロトタイプ

テクニカルプロトタイプ

社内稟議を通すためにイメージできるものを短期間で作りたい

事業アイデアの受容性を検証したい

適切な体験設計、ユーザビリティを検証したい

展示会・イベントで新サービスのデモブースを設置したい

技術要素を含んだ、プロダクトの実現性を検証したい

コンセプトプロトタイプ

コンセプトの要点やストーリーを共有するために、ストーリーボードやLPなどの形でビジュアル化する。

メリット

複雑なアイデアやプロセスを、シンプルなイメージやストーリーとして描くことで、アイデアを簡単かつ具体的に説明できる

期待できる効果

- ・取り組む機会の妥当性の検証
- ・ソリューションアイデアの受容性の検証

活用例

- ・社内プレゼンテーション
- ・プロダクト設計前にコンセプトの受容性を検証



デザインプロトタイプ

コンセプトが適切な体験やユーザビリティとして提供できているかを検証するために、プロダクトやサービスのUI/UXを具体化する。

メリット

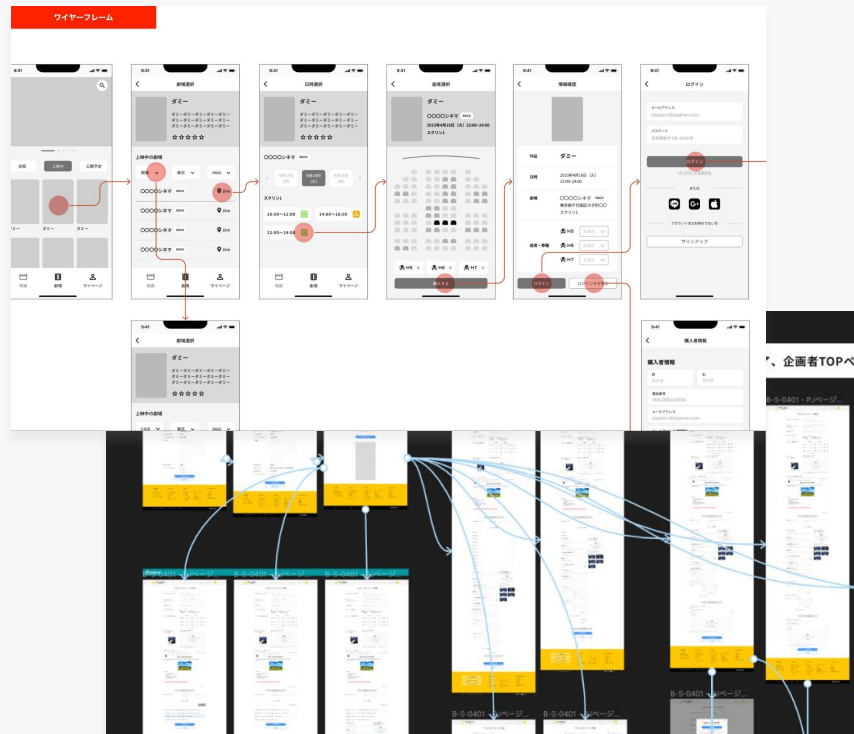
コンセプトを実際のプロダクトに近いモックアップの形に具体化することで、プロダクトの体験や操作感を共有できる

期待できる効果

- ・ 詳細機能の検証
- ・ 情報設計、画面設計の検証

活用例

- ・ 社内へのプレゼンテーション
- ・ 開発前のプロダクト設計の検証



デザインプロトタイプのオプション

ファンクショナルプロトタイプ

デザインプロトタイプだけでは実現しきれない、技術要素が関連するインタラクションも含めたユーザー体験を形にする。

メリット

- ・入力結果をリアルタイムでユーザーにフィードバックできる
- ・ビジュアル要素で設計されたコンポーネントを、ドラッグ&ドロップなどの操作で使用感を試せる
- ・簡易的なデータ計測ができる

期待できる効果

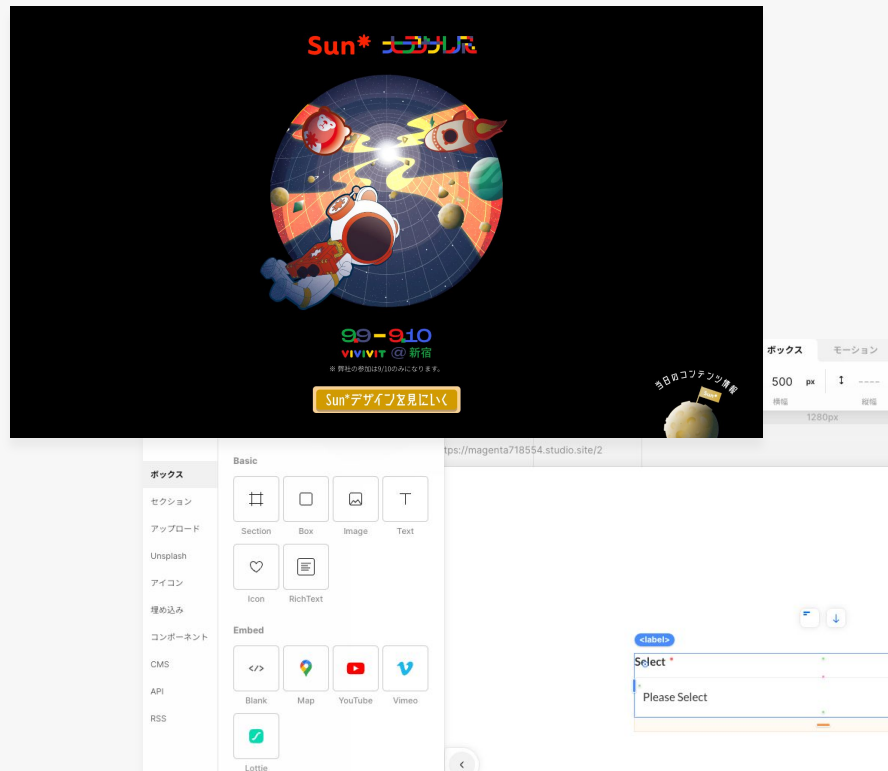
- ・インタラクションも含めたユーザー体験の検証
- ・ユーザーからの定量的なフィードバック

活用例

- ・ユーザーテスト
- ・データ計測結果を社内稟議の根拠として活用

対応可能なテクニカル要件

ノーコードツールを用いた実装、簡易的なコーディング、データ計測



テクニカルプロトタイプ

技術要素がプロダクトのコア体験となる事業アイデアにおいて、主要機能をコーディングすることでアイデアを形にする。

メリット

- ・ユーザー間のリアルなやり取りを実現できる
- ・撮影機能やBluetooth、GPSなど、端末の機能を活用できる
- ・日常的に利用することにより、体験価値を検証できる

期待できる効果

- ・技術要素が関連するインタラクションも含めたユーザー体験の検証
- ・機能要件の実現可能性の確認

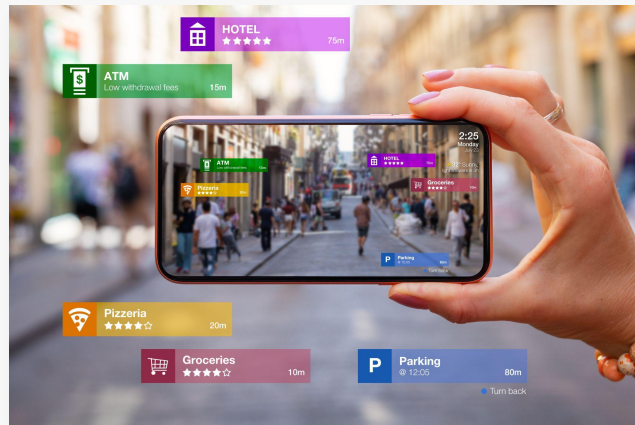
活用例

- ・社内外のプレゼンテーション
- ・展示会やイベントのデモブースでの活用

対応可能なテクニカル要件

Bluetooth, GPS, 撮影機能, LiDAR, 3D, APIとの連携 など

※MVP開発をお考えの場合、別途ご相談ください



コンセプト プロトタイプ

共有いただくもの

- ・事業コンセプト
- ・ペルソナ
- ・カスタマージャーニーマップなど

アウトプット

- ・ストーリーボード
- ・LP など

期間：1ヶ月

価格：528,000円(税抜)～

体制：デザイナー

デザイン プロトタイプ

共有いただくもの

- ・事業コンセプト
- ・ペルソナ
- ・カスタマージャーニーマップなど

アウトプット

- ・モックアップ(1ユースケース)
10画面程度

期間：1ヶ月

価格：880,000円(税抜)～

体制：デザイナー

オプション ファンクショナルプロトタイプ

ファンクショナルプロトタイプをご希望される場合、価格と体制にエンジニアのアサイン分が追加されます

テクニカル プロトタイプ

共有いただくもの

- ・事業コンセプト
- ・ペルソナ
- ・カスタマージャーニーマップ
- ・実装予定のデバイス
- ・コア機能 など

アウトプット

- ・モックアップ(1ユースケース) 10画面程度
- ・一部機能実装されたプロトタイプ

期間：1ヶ月～

価格：要件によって変動します

体制：デザイナー + エンジニア



ユーザー検証（設計 + 実施 + レポート）1.5ヶ月～1,560,000円(税抜)～

※検証目的や内容によって、期間と金額が前後する場合があります

ユーザー検証

作成したプロトタイプを活用し、事業アイデアの受容性や、プロダクトのユーザビリティ検証を行います。



ユーザー検証を実施する目的をすり合わせます。

具体例

- 事業アイデアの受容性を検証したい
- 事業者側が想定している体験が、ユーザーニーズに合っているか 検証したい
- 提供するプロダクトのユーザビリティを検証したい など

検証目的に合わせて、ユーザー検証に必要な設計を行います。

具体例

- 調査結果として必要な情報(定性・定量 など)
- 調査手法の選定(アンケート、インタビュー等)
- 調査対象の設定
- 検証目的を満たすための検証実施数
- スクリプト(設問)の設計
- リクルーティング など

設計内容を元に、ユーザー検証を実施します。

具体例

- アンケートの場合、対象者へアンケートの配信
- インタビュー(オンライン、オフラインは検証方法によって決定)
- ユーザビリティテストの実施 など

検証結果の共有と合わせて、検証後のプロジェクトの進め方や体制案などもご提案いたします。

具体例

- レポート内容
 - 検証結果のまとめ
 - サマリーの提示
 - 見解の記載
- 方針提案
 - 次フェーズの進め方の提案
 - 体制の提案 など

Sun*に依頼するメリット

多様なプロフェッショナルが 数多く在籍



デザイナー、エンジニアだけでなく、ビジネスデザイナーやデータサイエンティスト等、多様なスキル・経験値を持ったメンバーが在籍。プロトタイピング後の事業グロスまで一貫して伴走します。

さまざまなジャンル・数多くの 事業支援実績



2012年の創業以来、430社800プロジェクト支援の実績があります。
業界・規模を問わず、数多くの企業の事業課題に対して伴走型支援を行っています。

特にエンジニアにおいて 強い優位性



1,000名を超えるエンジニアが在籍しており、圧倒的なスケーラビリティで、ビジネスフェーズや規模に応じて柔軟な開発体制を実現します。

ユースケースごとの活用例

活用例①事業アイデアの受容性検証と、サービスイメージを決裁者に魅力的に伝えたい

背景・目的

新規事業のアイデアが決まり、マーケットとして成長可能性があることがわかった。
一方で、顧客にとって価値のあるサービスになるのか検証を行う必要があり、サービスコンセプトを形にしたい。
その後、本格的に事業化していくかの社内決裁があるため、プレゼン時に事業アイデアを魅力的に伝えたい。



取り組んだ内容

コンセプトプロトタイプ

デザインプロトタイプ

テクニカルプロトタイプ

検証

- サービスコンセプトLPの作成
 - キービジュアルの作成
 - メイン機能の説明
- ユーザー検証の設計と、検証の実施

結果

- メインの顧客層がより明確になった
- 事業アイデアが描かれることで、実際の利用イメージが沸きやすくなった
- チームだけでなく、社内決裁者含めて、事業アイデアの共通イメージを持てるようになった
- プレゼン資料の魅力が増した

スケジュールと体制

1ヶ月目

2ヶ月目

デザインプロトタイプの作成

検証設計

検証実施

体制：デザイナー 2名

活用例②サービス体験イメージをUIUXに落とし込み、決裁者に魅力的に伝えたい

背景・目的

新規事業のアイデアが決まり、PoCに向けた予算確保のために社内プレゼンテーションを控えている。プレゼンテーションでは、この事業のコンセプトである「没入感」をアピールするだけでなく、体感して欲しいと考えている。

そこで、サービス利用時のイメージを手にとって触れるよう、インタラクティブを含んだプロトタイプを作成することになった。



取り組んだ内容

コンセプトプロトタイプ

デザインプロトタイプ
+ファンクショナルプロトタイプ

テクニカルプロトタイプ

検証

- ストーリーボードの作成
- サービスのメイン導線を体験できる画面デザイン
- ユーザビリティに影響するメイン画面のインタラクション実装

結果

- サービス体験が具体的になったことで、実際の利用イメージが沸きやすくなった
- チームだけでなく、社内決裁者含めて、事業アイデアの共通イメージを持てるようになった
- プレゼン資料の魅力が増した

スケジュールと体制

1ヶ月

デザインプロトタイプの作成

ファンクショナルプロトタイプの作成

体制：デザイナー 1名、エンジニア1名

活用例③本開発のための社内承諾を得るために、PoCを行いたい

背景・目的

社内アクセラレータープログラムで提案したヘルスケアサービスが最終審査まで進み、事業化に向けてMVP開発予算を確保するための動きを進めている。サービスコンセプトの受容性は検証できているため、プロダクトに落とし込んだ際にデザインの妥当性やユーザビリティが担保されているか、またMVP開発に必要な機能を決めるために、PoCを行うことになった。



取り組んだ内容

コンセプトプロトタイプ

デザインプロトタイプ

テクニカルプロトタイプ

検証

- 検証したい体験が含まれる画面のデザイン
- 日常的にサービスを利用してもらうため、データの蓄積ができるようなテクニカルプロトタイプの開発
- ユーザー設計と、検証の実施

結果

- サービスを体験してもらう中で、想定通りの反応だけでなく、足りない体験も発見できた
- ユーザーインサイトに刺さる主要機能を確認できた
- 定性・定量データを取得できたため、事業化に向けたプレゼン資料にファクトを掲載できた

スケジュールと体制

1ヶ月目

2ヶ月目

デザインプロトタイプの作成

検証設計

検証実施

テクニカルプロトタイプの作成

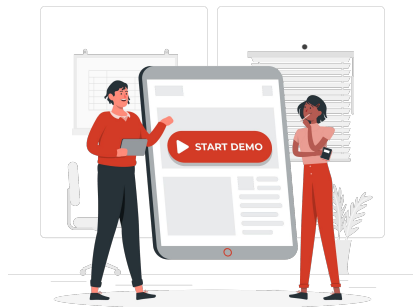
体制：デザイナー 1名、エンジニア1名

活用例④展示会で新サービスのデモを実施したい

背景・目的

既存サービスから派生した新規SaaSサービスの立ち上げを進めているC社は、ある展示会でブースを出すことになった。

新サービスのコンセプトお披露目と、ターゲットユーザーからサービスのフィードバックを得るために、展示会のブースで新サービスのデモを行うことになった。



取り組んだ内容

コンセプトプロトタイプ

デザインプロトタイプ

テクニカルプロトタイプ

検証

- サービス紹介パネルの作成
- コア体験となる画面デザイン
- デモ画面から入力した情報に対して、システム側からフィードバックを返すような機能実装

結果

- 本当にニーズがあるサービスなのか、ユーザーの声を拾えた
- プロダクト上でユーザーがどのような流れでサービスを利用するのか、実態を把握できた
- 入力内容に対して、システムが返してくる情報がユーザーニーズを満たしているものなのか、確認ができた

スケジュールと体制

1ヶ月目

2ヶ月目

サービスコンセプトの作成

デザインプロトタイプの作成

テクニカルプロトタイプの作成

体制：デザイナー 2名、エンジニア1名

事例

DX推進、新規事業開発支援事例：Ultra FreakOut株式会社

日本最大のタクシーサイネージメディアの配信基盤を拡張

デジタルサイネージ配信を一元管理する次世代

デジタル屋外広告 マーロン

DOOHシステムMaroon

全国32都道府県の67,000台以上に展開される日本最大のタクシーサイネージメディア「Tokyo Prime」に技術提供するUltra FreakOut社。その配信基盤を活用し事業をさらにスケールアウトさせるために、次世代DOOH（デジタル屋外広告）配信システム Maroonを企画。Sun *がPoCからサービスローンチをBTCで最適なチームを作り伴走しました。

Maroonは、同社のノウハウを活かし、広告だけでなく自社販促、公共交通機関などのコンテンツ配信にも対応。複数デバイスへの配信をクラウドで一元管理し、初心者でも使いやすいUI/UXで直感的操作を実現しました。今後も事業の成長に向けて継続的な支援を続けて参ります。

UI/UXデザイン

基本設計

開発実装

インフラ構築

DevOps

スタートアップ

広告配信

ISSUE クライアントの課題

これまで広告の入稿システムを手動で管理しており、事業拡大を視野にCMS化し管理を効率化したい。既存システムは自社で開発をしたが、機能拡張のためのエンジニア、デザイナーのリソースが不足しており、外部パートナーとの連携にも不安があった。PoCを実施し課題検証をした上で、既存システムと連携するサービスを段階的にリリースしていくために、一気通貫で伴走できるパートナーを探していた。

SOLUTION 課題に対するSun*の対応

PoCでは、1ヶ月の短期間でUIのモックアップを作成。画面デザインと並行して、競合調査や体験設計、ロードマップ、機能一覧を作成。クライアントと開発すべきもののイメージや既存APIの仕様を確認しながらデザインに反映。コラボレーションデザインツールのFigmaやMiroを活用し、デザインだけでなく要件も集約することで迅速な意思決定を行い、認識のずれを防ぎながらプロジェクトを遂行していった。



本サービス開発の主な流れ



Sun*

Thank you!